

財団法人8020推進財団  
平成 20 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録

1. 事業名 : 自閉症児に対する歯科保健事業VI  
～円滑かつ効果的な自閉症児に対する歯科保健活動を目指して～

2. 申請者名 : 財団法人サンスター歯科保健振興財団  
(理事長 金田博夫)

3. 実施組織 : 財団法人サンスター歯科保健振興財団  
(協力団体) 社会福祉法人北摂杉の子会 大阪自閉症支援センター

4. 事業の概要 :

財団法人サンスター歯科保健振興財団では、平成 15 年度より養護教諭及び障害児教育担当教員、自閉症者支援の専門療育スタッフ、歯科医師及び歯科衛生士が、「学校、療育、歯科」という3分野の知識、技術と経験を活かし、発達障害(自閉症)のある子どもたちの歯科保健の向上をはかることを目的とし、自閉症児へのさまざまな活動を実施してきた。即ち、第1～3回は自閉症児に対しどのように支援をすればよいのかを提案するためのモデル事業を実施し、第4回ではその経験をまとめて歯科医療関係者への啓発を行い、第5回では自閉症児の保護者に対し生活場面でも容易に取り込めるように冊子の作成や当財団ホームページに自閉症コーナーを開設し口腔衛生の向上を支援してきた。

今回の事業では、保護者に対し自閉症児の歯口清掃や歯科治療の実態を改めて調査し、保護者の経験から自閉症児が歯口清掃を行ったり、歯科治療を受けるために必要な支援ツール、特に過去の事業で行ってきた絵カードの提示による歯口清掃スキル取得以外の支援ツールの可能性を提案することを目的とした。

5. 事業の内容 :

① 調査設計段階において、「調査票作成検討会」を立ち上げ。

②調査実施

調査地域:全国

調査対象:自閉症児の保護者 250名

調査方法:アンケート調査票の郵送

調査期間:2008年11月～2009年1月

②実態調査結果の解析結果に基づく、支援策の提案

6. 実施後の評価:

全体として、自閉症児への歯科的支援の工夫は決まったものでは不十分であり、個々の状態に合わせたものであるべきだとする見方を今回の調査でも改めて確認することになった。歯磨きに対する絵カードに代表される視覚的支援を例に挙げても、ただ1つの絵カードが全ての自閉症児に応用できるわけではない。手順ステップを減らすことができる場合もあれば、逆に増やす必要がある場合もある。

かわいらしい絵にするか、写真にするか、お気に入りのキャラクターを用いるかによって導入の容易さに差が出てくる。要は、視覚的支援の前に対象児の理解が必要であり、そのためにはキーパーソンである保護者とのコミュニケーションが欠かせない。保護者は対象児を最も理解する者であるが、対象児の状態に合わせた工夫を知悉しているわけではない。工夫すればできるようになるのか、その工夫はどのようなものなのかの選択肢と見通しを示し、共に試行錯誤をすることが支援者側に求められる。